

厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）
「公衆衛生医師の人材育成に向けた好事例の横展開に向けた研究」
令和4年度 分担研究報告書

「医学生を対象とした就職活動の情報源に関する調査」

町田宗仁（国立保健医療科学院・研究代表者）、名越究（島根大学医学部）、藤井仁（目白大学看護学部）、武智浩之（群馬県利根沼田保健福祉事務所）、宮園将哉（大阪府健康医療部保健医療室）、山本長史（北海道渡島総合振興局（渡島保健所兼八雲保健所））、横山勝教（香川県東讃保健福祉事務所）、杉山雄大（国立大学法人国立国際医療研究センター研究所糖尿病情報センター、筑波大学医学医療系ヘルスサービスリサーチ分野・研究協力者）

研究要旨

【目的】

公衆衛生医師志望者の新規開拓に向けた基礎資料となるべく、将来の臨床研修先を探す、医学生の就職活動の情報源に関する意識調査を行った。

【方法】

各大学医学部5，6年生を対象とした就職活動の情報源について Web によるアンケート調査を行った。（秋田、山梨、鳥取、鹿児島大学の計 947 名が対象）

【結果】

計 947 名中 95 名が参加（回答率 10.0%・大学ごとの回答率は 5.9~18.7%）。病院のホームページなど Web サイトを活用しての情報収集がメジャーで、SNS などの活用事例も、半数以下ではあるが見られた。最終的に就職先を決める際は、病院見学や知り合いといった、人との繋がりを重視している傾向にあるが、まずは公衆衛生医師に勧誘するきっかけとして、ウェブサイトの活用は必須である。動画は 5 分以内、長くても 10 分を切る長さが、勧誘ツールとしては相応しい。

【結論】

業務紹介は若手が望む形式でのインターネットの活用が望ましい。

A. 研究目的

今般の新型コロナウイルス感染症のまん延は保健所を中心とした健康危機管理の重要性を浮き彫りにしたが、医療と行政の橋渡しを行う保健所等勤務の公衆衛生医師確保や人材育成については、これまで長年の懸案事項であった。「公衆衛生医師確保に向けた取組事例集」（2012年・厚労省）をもとに自治体が採用活動を展開しているものの、都道府県保健所の約 1 割が保健所長を兼務する状態が続

いている。

本研究では、公衆衛生医師志望者の新規開拓に向けた基礎資料として、医学生に公衆衛生業務に関する意識調査を行い、医療と行政の橋渡しを行う公衆衛生医師の人材育成方策の横展開を推進するためのコンテンツを構築の際に資することを目指した。

B. 研究方法

医学部公衆衛生学の講義ないし実習を

受講中、ないしは終了後から半年以内の医学生を対象に、Webによるアンケート調査を行った。ご協力いただいた各大学医学部5、6年生に対して、公衆衛生学教室ないしは、医学部学務担当課から協力依頼のメールを送信した。なお調査にご協力いただいた大学は、秋田、山梨、鳥取、鹿児島の4大学であった。

統計解析について、数的分析はSPSS Ver.27を、質的分析（自由記載内容のテキストマイニング）は、KH-Coder、それぞれ用いた。

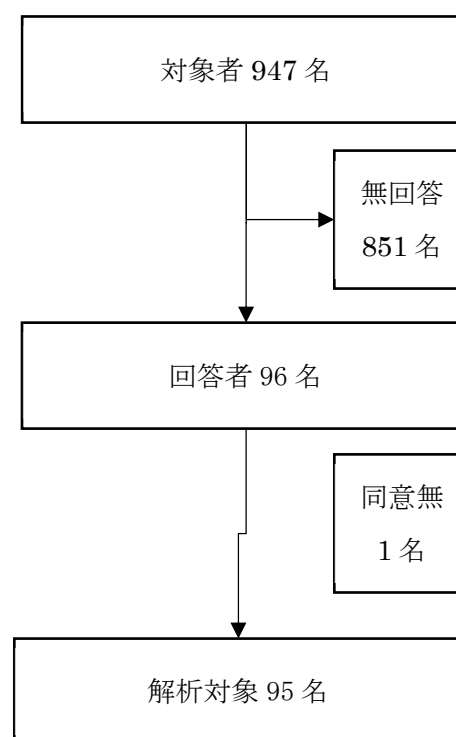
<倫理的配慮>

国立保健医療科学院研究倫理審査委員会の承認を経て、実施した。

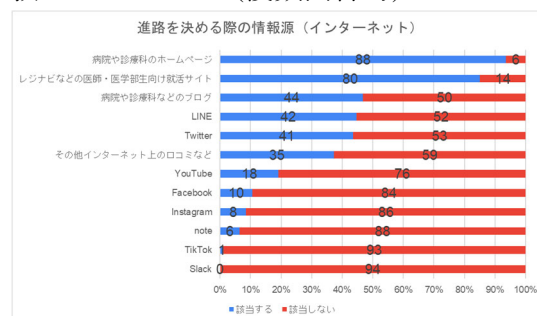
（承認番号 NIPH-IBRA # 12380）

C. 研究結果

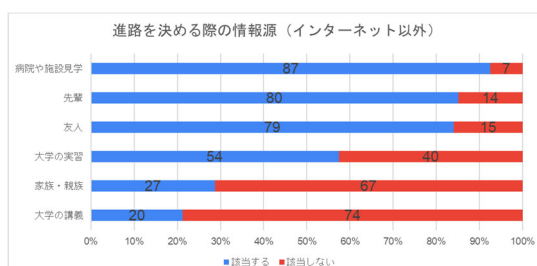
対象者計947名中95名が回答（回答率10.0%・大学ごとの回答率は5.9～18.7%）。調査の趣旨に同意を得られ、質問に回答いただいたのは、5年生63名、6年生31名（94名）、性別構成は回答があったものとして男性55名、女性31名であった。



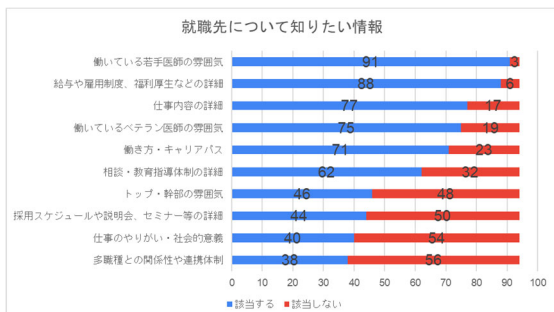
1. 将来の進路（病院や診療科など）を考えるための情報を収集するのに、活用しているインターネット等のサービス名を教えてください（複数回答可）



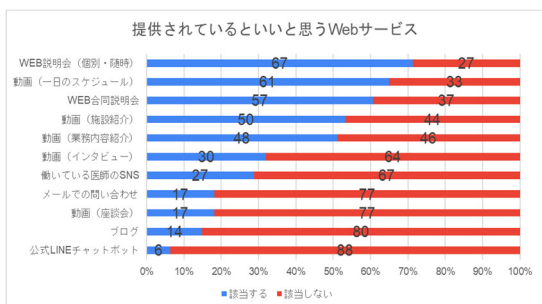
2. 将来の進路（病院や診療科など）を考えるための情報を収集するのに、活用しているインターネット以外のリアル情報源を教えてください（複数回答可）



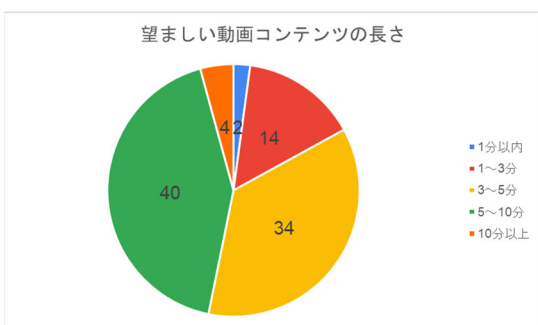
3. 就職先について知りたい情報は何か。(複数回答可)



4. 興味のある就職先・施設等の HP から提供されているといいと思う WEB サービス・情報・SNS 等は何ですか。(複数回答可)



5. 就職情報を知るための動画コンテンツの 1 本あたりの長さはどのくらいが望ましいと感じますか



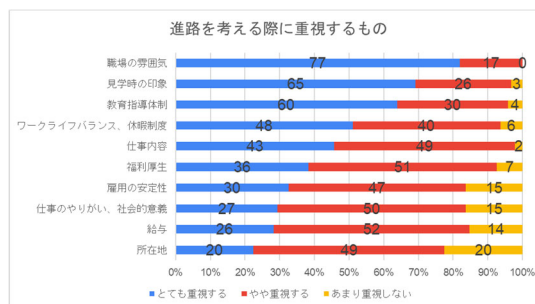
6. これまで見た病院やドクターの HP や動画、SNS などで、印象に残っているものがあれば教えてください

自由記載：

(少数記載のため、全文掲載 (特定の施設名がわからないよう加工済み))

研修医の 1 日に密着した動画、院長や研修医担当の医師による理念や求める人材などのコメント、興味ある診療科の Instagram、インタビュー動画、実際に働いている研修医がなぜこの病院を選んだかといった体験談、YouTube、ある大学初期研修 HP にある初期研修の特色、ショート動画 (楽しげな雰囲気が伝わってくる。)、〇〇病院の研修医、研修医の 1 年や 1 日の流れ、研修医の座談会記事、病院見学の申し込みフォームがあり、メールを作成しなくても見学に行ける、Twitter で活動している助産師さん、研究室配属で教授に教えてもらったクリニックの HP、など

7. 将来の進路 (病院や診療科など) を考える際にそれぞれについてどれくらい重視しますか (1 : ほとんど重視しない ~ 4 : とても重視する)



8. 学年

5 年生 63 名 6 年生 31 名

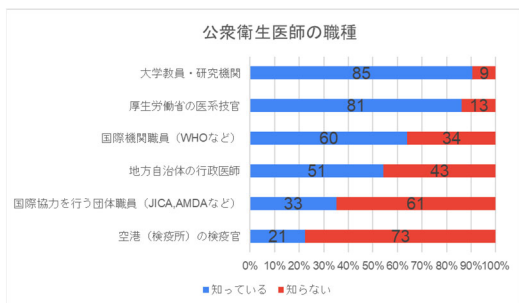
9. 臨床ではなく公衆衛生に携わる医師というキャリアに興味はありますか

はい 42 名 いいえ 52 名

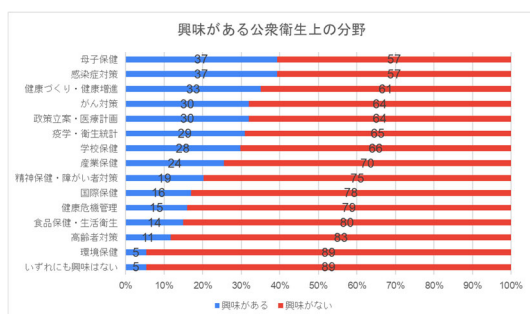
10. 性別（選択肢はランダムに表示されます）

男性 55名 女性 31名

11. 公衆衛生に携わる医師としてどのような職種を知っていますか（複数回答可）



12. 公衆衛生で興味のある分野はどれですか（複数回答可）



13. ご親族に医師はいますか

はい 30名 いいえ 64名

14. 地域枠の従事要件はありますか

はい 17名 いいえ 75名

なお、一部アンケート結果につき、公衆衛生医師への興味有無による違いに関する検定（カイ2乗検定）を行った。有意水準は5%とし、5%を下回ったp値に**をつけた。

I. 将来の進路（病院や診療科など）を考えるための情報を収集するのに、活用しているインターネット以外のリアル情報源を教えてください

情報源	公衆衛生医師に興味あり		公衆衛生医師に興味なし		p値	
	該当	非該当	該当割合	非該当		
先輩	34	8	81.0%	46	6 88.5%	0.387
友人	29	13	69.0%	50	2 96.2%	0.000**
家族・親族	14	28	33.3%	13	39 25.0%	0.492
大学の講義	12	30	28.6%	8	44 15.4%	0.136
大学の実習	26	16	61.9%	28	24 53.8%	0.530
病院や施設見学	39	3	92.9%	48	4 92.3%	1.000

II. 興味のある就職先・施設等のHPから提供されているかと思うWEBサービス・情報・SNS等は何ですか。

情報源	公衆衛生医師に興味あり		公衆衛生医師に興味なし		p値	
	該当	非該当	該当割合	非該当		
WEB説明会（個別・随時）	36	6	85.7%	31	21 59.6%	0.006**
WEB合同説明会	24	18	57.1%	33	19 63.5%	0.671
動画（インタビュー）	7	35	16.7%	23	29 44.2%	0.007**
動画（業務内容紹介）	18	24	42.9%	30	22 57.7%	0.213
動画（施設紹介）	20	22	47.6%	30	22 57.7%	0.407
動画（一日のスケジュール）	24	18	57.1%	37	15 71.2%	0.194
動画（座談会）	5	37	11.9%	12	40 23.1%	0.188
働いている医師のSNS	14	28	33.3%	13	39 25.0%	0.492
ブログ	6	36	14.3%	8	44 15.4%	1.000
メールでの問い合わせ	7	35	16.7%	10	42 19.2%	0.794
公式LINEチャットボット	3	39	7.1%	3	49 5.8%	1.000

III. 公衆衛生で興味のある分野はどれですか

情報源	公衆衛生医師に興味あり		公衆衛生医師に興味なし		p値	
	該当	非該当	該当割合	非該当		
政策立案・医療計画	20	22	47.6%	10	42 19.2%	0.004**
健康危機管理	7	35	16.7%	8	44 15.4%	1.000
健康づくり・健康増進	19	23	45.2%	14	38 26.9%	0.083
がん対策	9	33	21.4%	21	31 40.4%	0.074
感染症対策	14	28	33.3%	23	29 44.2%	0.298
母子保健	18	24	42.9%	19	33 36.5%	0.671
高齢者対策	4	38	9.5%	7	45 13.5%	0.749
精神保健・障がい者対策	10	32	23.8%	9	43 17.3%	0.452
環境保健	4	38	9.5%	1	51 1.9%	0.169
産業保健	10	32	23.8%	14	38 26.9%	0.814
学校保健	18	24	42.9%	10	42 19.2%	0.022**
食品保健・生活衛生	7	35	16.7%	7	45 13.5%	0.773
国際保健	8	34	19.0%	8	44 15.4%	0.784
疫学・衛生統計	14	28	33.3%	15	37 28.8%	0.660
いずれにも興味はない	0	42	0.0%	5	47 9.6%	0.063

D. 考察

病院のホームページ、就活サイトなどインターネットのWebサイトを活用しての情報収集がメジャーであり、Webサイト以外のSNSなどの活用事例も、半数以下ではあるが、見られた。最終的に就職先を決める際は、病院見学や知り合い、友人といった、直接ないしは間接的な人との繋がりを重視している傾向にある。

公衆衛生医師の勧誘をすることを考える場合、取っ掛かりとして、インターネットの活用は必須であると言える。動画も2割程度、就職活動の参考として活用していることから、5分以内、長くても10分を切る長さの動画が、勧誘活動として若手に視聴してもらえのだろうと考えられる。

職場の雰囲気、職場見学時の印象、教育指導体制は、医学生の就職活動時の関心事であり、これらの点に応えられるような勧誘活動が望ましいと考えられた。

公衆衛生医師に興味がある学生は、ない学生よりも、I.友人を情報源としない、II.Web 説明会选择し、インタビュー動画を選択しない傾向にある、III.政策立案・医療計画に関心を持つ傾向にあることがわかった。広報ツールに関して、公衆衛生に興味を持つ学生の幅を更に広げること（興味を持たない層の掘り起こし）を考慮すれば、インタビュー動画で惹きこむことが有効と考えられた。

なお、多くの医学生に協力を依頼した中で、公衆衛生という分野に関心がある学生が、本アンケートに回答していること、回答率（10.0%）には、留意しなければならない。他方、公衆衛生に関心のある学生のみが回答した結果の内容とも、解釈できる。

E.結論

潜在的な公衆衛生分野や公衆衛生医師に関心がある学生が、魅力的と感じる勤務形態をイメージが湧く形で具体的に提示し、また、業務紹介は若手が活用しやすい、かつ望むコンテンツや形式での、インターネットの活用が望ましい。

F.引用文献

なし

G.研究発表

学会発表

令和5年度に予定

論文発表

令和5年度に予定

H.知的財産権の出願・登録状況

なし